6月　鳩山由紀夫さんへの一通の手紙−「恥」という字をご存知ですか?　浅野　一弘

拝啓　鳩山由紀夫さま。

毎年，12月になると，その年を象徴する漢字一字（＝「今年の漢字」）を清水寺の貫主さんが毛筆で巨大な和紙にしたためるのをご存知でしょうか。2010年は，異常なまでの夏の暑さがつづいたということもあって，「暑」という一文字が選ばれたようです。わたしは，これにちなんで，あなたにも，漢字一字をプレゼントしたいと思います。それは，「恥」という字です。『広辞苑』によると，この字は，「①恥じること。（過失や失敗をして）面目を失うこと」「②名誉をけがされること。不名誉。恥辱。侮辱」「③恥ずべきことを知ること。名誉を重んずること。廉恥心」といった意味を有するようです[1)]。ということは，いまのあなたにピッタリなことばであるように思うのですが，いかがでしょうか。

では，なぜ，「恥」という文字をあなたにささげるのか，その理由を説明させてください。あなたは，2010年６月２日の民主党両院議員総会の場で，普天間飛行場移設問題や政治とカネをめぐる政治的混乱の責任をとって，内閣総理大臣の職を辞すとの意向を表明されました。しかも，その日の首相官邸での記者団とのやりとりにおいて，あなたは，「私は国会議員としてのバッジを与えて頂いた，有権者に選挙で選んで頂いた。それを途中で投げ出すべきではないと。しかし総理たる者，その影響力をその後，行使しては，行使しすぎてはいけない，そのように思っています。従って私は，次の総選挙に出馬はいたしません」（傍点，引用者）ということを明言なさいました[2)]。さらに，20日後の『北海道新聞』のインタビュー（22日）においても，あなたは，「前回選挙で20万超の得票をいただいており，有権者からすれば，首相は辞めても議員は辞めるなと（いう思いだろう）。ただ，次の衆院選に出るつもりはありません。人事に隠然とした力を持つとか，首相経験者がやると後のものが困る」（傍点，引用者）と断言されています[3)]。“闇将軍”として，院政をしくことを受け入れず，さらに，次期衆議院選挙への出馬をもきっぱりと否定された，あなたのスタンスに，多くの方が，拍手をおくられたにちがいありません。考えてみると，あなたは，2009年７月26日の時点で，自民党の森喜朗，安倍晋三両元首相を念頭において，「総理大臣まで極めた人がその後，影響力を行使することが政治の混乱を招いているんじゃないか」と批判し，「総理大臣を終えた後，政界に残っちゃいけない」との自説を強調されておられました。このときの記者団からの「自身も首相になって退任したら，次の選挙に立候補しないのか」との問いに対しても，あなたは，「基本的に

そのように考えている」とお答えになっていました[4)]。

ですから，あなたは，最後の最後になって，ようやく，みずからの発言に責任をおもちになるということで，ほっといたしました。しかし，そう思っていたのもつかのまで，ここから，たいへんなあやまちが，スタートしてしまいます。あなた自身，もうお忘れかもしれませんが，政界引退をめぐるあなたのご発言は，大きくブレていくのです。

あなたの発言のブレは，普天間飛行場移設をめぐっても問題視され，それが辞任の契機となったはずです。にもかかわらず，あなたはまた，おなじあやまちをくりかえされました。こうした思いをいだいたのは，わたし一人ではないようです。12月18日の次期衆議院選挙への出馬表明を受けて，たとえば，地元紙の『北海道新聞』は，「引退撤回＊鳩山さん，節操はどこに」と題する社説をかかげました[5)]。同社説には，「国会議員の言説がその時その時の気分や思い付きでころころと変わるようでは国民は戸惑うばかりだ。まして政界のトップリーダーである首相まで務めた人物であればなおさらである」としたうえで，「政治不信を助長し，政治家を軽く見る風潮に拍車をかけるだろう。鳩山氏のためにも残念なことだ」と記されていました。東京在住のあなたは，この社説をご覧になっていないかもしれませんね。あっ，失礼いたしました。そういえば，あなたは，次回の衆議院選挙に北海道９区から出馬なさるんでした。選挙区の地元メディアが，あなたのことをどのように報じているかは，すでに調査ずみのはずですね。

思いおこせば，「あの暑い夏の総選挙の日」[6)]，あなたは，20万1,461票を獲得されました。これは，66.36％の得票率です。それだけ，北海道９区（室蘭市，苫小牧市，登別市，伊達市，胆振支庁管内，日高支庁管内）のみなさんが，あなたにたくした期待が大きかったというわけです。しかも，この票数は，全国の最多得票でもありました。そのことに関して，あなたは，「地元には１日も入れなくて大変申し訳なかったと思っておりますが，それにもかかわらず20万を超える得票をあげていただいたと。大変ありがたいことで私の人生における最高のプレゼントを有権者の皆さんにしていただいたなと心から感謝をしています」と語っておられました[7)]。

それほどまでに，地元の方々に感謝をしておきながら，聞くところによりますと，あなたの次期衆議院選挙への不出馬表明を耳にした，「支持団体の連合室蘭の幹部は『事実なら，支援者に一言もないまま，勝手に引退を決めるのは無責任だ』と憤った」との報道もなされていました[8)]。あなたの身内ともいうべき鳩山総連合後援会の加藤徳治郎・幹事長も，「納得できない部分もある」とおっしゃっていたようです[9)]。ですが，後日，あなたは，「後援会関係者に，退陣を決意した心中などを吐露する手紙を送っていた」そうですね。そのなかで，「首相として一度もお国入りできないまま，後援会への十分な相談な

しに首相辞任や次期衆院選への不出馬を決めたことを謝罪」なさったとか・・・[10]。“友愛”の精神，ここにみたりといった印象を受けました。

そのお気持ちが伝わったんでしょうか，2010年６月17日の地元紙には，「鳩山由紀夫前首相の次期衆院選への不出馬表明に対し，16日の幹部会で受け入れの方針を決めた地元の総連合後援会（斎藤修弥会長）。出席者から異論は出ず，今後は事務所の存廃に向けた協議も行われることになった」とありました。この決定がくだされた背景には，「本人の政治姿勢に基づく発言」で，「後援会がどうこうできるものではない」との考えがあったようです[11]。とはいえ，総連合後援会幹部会は，「鳩山に再三説明を求めたが，届いたのはＡ４判の文書３枚」だけであったともうかがっています[12]。

ところが，７月17日，地元入りしたあなたは，「後援会会合で涙ながらに『辞めないで』と言う方がいて胸を打たれました。そういう声に心が動くのは人間として当然だと思います」との思いから[13]，「『日ロも沖縄問題も「言いっぱなしで辞めたらおしまい」という態度は，人間としてとるべきでない』と述べ，首相辞任時の次期衆院選不出馬発言を撤回する可能性を示した」のです[14]。それにしても，おかしいですね。あなたは，ふだんから，ご自分のことを「宇宙人」と称しておられたはずです。そのあなたが，どうして，ここへきて，ことさら，「人間」であることを強調なさるのでしょうか。

そして，10月24日には，「民主党の状況が思わしくない。自分なりの役割を投げ出していいのかという，いろいろな声をもらっている」としたうえで，「議員を続ける方向に気持ちが傾いてきている。まだ決めていないが今年中に結論を出す」とおっしゃいました[15]。ですが，考えてみてください。政権交代にかけた有権者の期待をふみにじったのは，あなたではなかったのでしょうか。よくも，平気で，このようなご発言ができますね。しかも，なんと，12月18日には，あなたは，「政治家の言葉が軽くてはならない。しかし，ふるさとの皆さまから『地域のために尽くすべきだ』と気持ちをちょうだいし，真剣に考え直さなければ，と思った」とおっしゃって，次期衆議院選挙への出馬を表明なさいました[16]。あなたのおかげで，厚顔無恥という四字熟語を久しぶりに思いだすことができました。

こころのお優しいあなたは，きっと，地元のみなさんの涙を目のあたりにして，“友愛”の情を最大限発揮され，みずからの政治理念を曲げてまで，次期衆議院選挙への出馬を決意なされたのかもしれません。ですが，公人である政治家の発言ほど，重いものはありません。現に，たちあがれ日本の与謝野馨・共同代表は，「ひとたび口から出た言葉は，世の中をさまよい歩く。だから，言ったことは守らなければならない。そういう意味で鳩山由紀夫さんは落第だ」と，あなたの行動を一刀両断になさっておられます[17]。わたしも，あなたの無責任さには，あきれはててしまいます。結局，あなたの政治理念とは，それほ

どのものだったんですね。今回のことで，それが，よくわかりました。そのことにこれまで気づかなかったわたしこそ，「恥」の字がピッタリかもしれません。

さて，あなたには，もっともっといいたいことがあります。ですが，残念ながら，紙幅がなくなってきてしまいました。くわしくは，拙著『民主党政権下の日本政治－日米関係・地域主権・北方領土－』（同文舘出版，2011年４月刊行予定）をご笑覧ください。

最後となりましたが，この手紙の終わりも，「敬具」ではなく，発言が軽く，政治家として愚行をくりかえしたあなたにマッチしたことばでしめさせてください。

軽愚

注

１）『広辞苑』〔第６版〕（岩波書店, 2008年）, 2245頁。
２）『朝日新聞』2010年６月３日，４面。
３）『北海道新聞』2010年６月23日，４面。
４）『朝日新聞』2009年７月27日, 26面。
５）『北海道新聞』2010年12月22日，３面。
６）『第百七十三回国会　衆議院会議録　第一号（一）』2009年10月26日，２頁。
７）『朝日新聞』〔北海道版〕2009年９月２日，26面。
８）『北海道新聞』2010年６月３日, 28面。
９）同上〔室蘭・胆振版〕2010年６月５日, 25面。
10）『北海道新聞』2010年６月17日，２面。
11）同上〔室蘭・胆振版〕2010年６月17日, 27面。
12）『北海道新聞』2010年６月25日，２面。
13）同上〔室蘭・胆振版〕2010年７月24日, 31面。
14）『北海道新聞』2010年７月18日，１面。
15）同上，2010年10月25日，１面。鳩山のこの発言を受けて，「鳩山氏の総連合後援会は25日，鳩山氏に対し，年内に地元で議員続投を正式表明するよう要請する方針を決めた」との報道がなされた（同上〔室蘭・胆振版〕2010年10月26日，25面）。
16）『北海道新聞』2010年12月19日，２面。すでに，10日の時点で，鳩山は，総連合後援会幹部に対して，「不出馬撤回の方向で態度表明したい。表現は任せてほしい」と語っていたという（同上，2010年12月14日〔夕〕，１面）。
17）『財界さっぽろ』2010年６月号, 62頁。